

## 全国女性会館協議会 第55回全国大会 分科会 報告書

参加者： 16人

## 分科会B

## 効果的なDV防止啓発事業と自立支援～NPOとの協働～

ODV防止啓発・自立支援事業について富山県女性財団の取組みを報告

## ○事例発表

グループ女綱（なづな）～ストップDVとやま～ 豊富 安子 氏

## ・活動紹介

相談（電話＜女綱ホットライン＞、メール、ホームページ掲示板、面接）、サポートグループ、同行支援・生活支援・就労支援、啓発活動（HP、マスメディア対応、行政への働きかけと連携、女性センターとの協働、出前講座や学習会の実施、機関紙発行、全国の市民団体とのネットワーク）

- ・DV防止において富山県民共生センター（サンフォルテ）主催事業に共に取り組む他の協働団体の紹介  
1団体では計画性・持続性に課題があるので、他団体との協働は意義がある。
- ・一般の方のDVに対する認識はまだ低く、講演やシンポを行っても、人が集まりにくいのが課題。

## ○グループ・ディスカッション（情報交換）とグループ発表

各館の取組みと課題を共有し、解決法やアイデア等を交えながら意見交換した。なお、分科会サブタイトルの“NPO”は、センター外部のNPO（指定管理者ではない）と定義して話を進めた。

## 主な発表内容

- ・相談内容を講座にどう反映するか。相談員が事業企画に携われれば力量の向上にもつながる。
- ・DV防止啓発には早期教育が有効。学校で展開するにはきちんとカリキュラムの中に入ることが大切。デートDV予防教育は性教育とあわせて進めたい。
- ・学校への出前講座を展開するうえでは、教育委員会との関わり方が重要。

学校はNPOによるデートDV予防啓発講座を受け入れたがらない。

デートDVが存在する学校（＝問題のある学校）だと思われるのを恐れる。

学校とは関係ない問題、家庭の問題であるという認識が根強い。

社会的地位と公的な後ろ盾がない団体は、信用されない。

⇒ 事例&アイデア：生徒向けと指導者向けの冊子をつくり、教師自身が授業を行えるようにした。

大学教授や産婦人科医等、ネットワークを活用する（←教育委員会、学校としては受け入れやすい）。

- ・フリースクールに通う子どもたちにはDVの情報が届きにくい。
- ・アンケート調査では詳細な実態が分からない。特に、若年層は大人にはほとんど相談しないため、実態を把握するのが難しい。

